

※住田代表理事の「カンボジア回顧録」はお休みさせていただきます。

◆来期予定のスレイ・ビボケイ中学校訪問 奨学金給付候補生徒30人？！

10月18日、ビボケイ中学校で7月に頼んでいただいた奨学金給付生徒についてブンコン校長に聞きました。校長は30人の生徒の一覧表を持ってきました。各先生の推薦と指定の貧困カードをもっている生徒だそうです。全員に奨学金を給付することは出来ませんので、「学校の成績・人柄・両親の仕事や収入・家族関係」を調べて欲しいと伝えました。先生全員が話し合って候補生徒を決め、奨学金給付は全員の先生の協力を実施したいことを伝えました。奨学金給付候補生徒を10月末までに決めてもらうことにしました。



校長先生の聞き取りを待つ30人の奨学金給付候補生徒。

■次回から指導するに当って、「事前の授業の勉強」をどのようにしているか聞き取りをしました。

○テック・サーヴン先生(国語・30才)教科書を何回も読む。難しい言葉を調べ、質問を予想して答えられるように用意している。

○セング・サヴォーン先生(地理・45才)指導案を書くために、教科書を読んで教える内容を理解する。教科書にある問題の答を用意している。

○チャット・サルット先生(歴史・30才)単元の教える内容を勉強して時間配分を決める。テキストのキーワードを調べる。

○ソ・クンリンダ先生(英語・27才)生徒によくわかるために、レッスンの内容を詳しく調べて勉強している。時間数を決め1時間に教える内容を考えている。評価も考えている。時間が余れば宿題を出す。

○ライ・ソマリー先生(数学・21才)授業の進め方を考えている。パターンは復習をさせることと練習をさせることの2通りある。

○サオ・キムリー先生(理科・28才)自分がわかるように勉強する。宿題を考えておく。

○リー・ティナツ先生(生物・27才)教えることを、自分が良く分かるために勉強している。



◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、下記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載 ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/> しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019 E-mail: info@ssf.or.jp



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「によにゆむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ញឹម によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゆむ通信

2018年10月号 No.10

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019
E-mail: info@ssf.or.jp
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆シエムリアップ州教育局を訪問 「カンボジアの発展に貢献してくれて、ありがとう」 (ホン・オヴォラナー副教育長より)

10月19日、シエムリアップ州教育局を訪問、急な訪問でしたのでサイ・チャ・スホン教育長はプノンペンで行われている教育省の会合に出席して留守でしたが、オボオラナー副教育長が快く対応してくれました。

「学校現場に行って指導するのが私の仕事です。

もう30年間やっています。アライン・ランサイ中学校は、私の担当アリアだからSSFCが指導してくれているのは、良く知っています。ランサイ中学校に行く度に 校長から良い報告を受けています。

SSFCは、カンボジアの発展に長い間貢献してくれて、ありがとう。感謝しています。」

「授業の教え方は大事だと、いつも思っています。先生が良くなれば、生徒も良くなります。是非、先生の力を高めて下さい。」

住田が、SSFCの「によにゆむ通信」を見せて成果を説明する。

「これは素晴らしい。クメール語に直して教育局に下さい。そうすれば、私が教育局内や他局、教育局に来る団体に配ります。学校にも配りたいと思います。」と言って今後の協力も約束してくれました。



オヴォラナー副教育長に「によにゆむ通信」を見せて説明する

◆シエムリアップ州バクコン郡教育局を訪問 「私もランサイ中学校の授業発表会に行きました」

バクコン郡教育局を訪問しました。郡教育長は7月6日のランサイ中学校授業発表会に朝から来て、先生方の授業や午後からの教科別研究会にも参加してくれました。そのお礼に訪問しましたが、郡教育長は3日間の研修で、副教育長と一緒にプノンペンに行って不在でした。その時、郡教育局のス・ロットナー職員(男・31才)他3人の職員が対応してくれました。



バクコン郡教育局の建物と対応してくれた職員

ス・ロットナーさんは、「私は学校建設を担当しています。SSFCが支援して下さる先生の指導と生徒への奨学金をありがとうございます。先日のランサイ中学の授業発表会に私も行きました。先生も生徒も生き生きとして、学校中に活気がありました。郡教育局も応援します。私ができることは何でもしますから、言って下さい。SSFCが言われるように年配の先生は意識改革が難しいです。郡教育局でも講習会をしていますが、年配の先生は参加してくれません。若い先生も指導の仕方が分からず困っています。これからはSSFCと郡教育局と連携しましょう。シエムリアップ州に来た時は連絡してください。」と、とても協力的な言葉をいただきました。

ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆ポットロン小学校訪問 増水で島が水没！

10月15日、ポットロン小学校に指導に行きました。

今年は雨がが多く、コンポンチュナン州内を流れるトンレサップ川も増水して、ポットロン小学校のある島へ行く船着き場も水没して使えませんでした。はるか手前の道路から、迎えに来た小船に乗り、トンレサップ川を横切り、支流の川を走ること40分、島全体が水没していましたので、船は校舎正面の階段に横付けして校舎に入りました。大きな湖の中に校舎だけが雄大にそびえ建っているように見えます。

■ポットロン小学校で

「生徒によくわかる授業の仕方」の指導を開始。

ポットロン小学校は、校長も入れて先生は4人です。(男2人・女2人)①ナウ・ナー校長(男・32才)、コンポンチュナン師範学校卒業。授業は教えていません。先生が休んだ時に授業を教えに行きます。②チャン・スライ・チャン先生(女・25才)、コンポンチュナン師範卒、4・5年担当。教科書をよく読んで、必要な絵や実物などを準備している。③イエン・スラッ先生(男・21才)、コンポンチュナン師範卒、2～6年担当。絵をかいて見せて、生徒に教えている。④ケオ・リツキア先生(女・28才)、コンポンチュナン師範卒、1～3年担当。字を教えるのに、生徒に指で字をなぞらせている。字の上下がわからない生徒が多い。字の形をわからせるのに苦労している。先生が書いた絵を見せると生徒の反応がよい。

■模範授業をしました。算数「追いかかけ算」

校長先生を含めて4人の先生を生徒にして授業をしました。

授業のために先生が実践すべき4項目「①先生の事前勉強②生徒の興味・関心を引く授業の入り方③生徒に考えさせる授業④生徒の理解度の予想と確認」を、クメール語に訳した指導案を配り、確認しながら行いました。

2人の先生に生徒役で前に出てもらい、私が先生役で実演しながらの指導です。

「同じ方向に同じ速さで歩くと2人の間に距離の差が出ない」・「同じ方向に歩く速さが異なる2人が歩くと2人の間に距離が生じる」・「前方の歩く速さが遅い人に、後ろ速く歩く人が追いつく」ことなどを確認しました。

問題：1時間に3km歩くAさんが出発した2時間後に、1時間に5kmの速さで歩くBさんが出発しました。何時間後にBさんはAさんに追い付きますか。

先生たちは小学校から師範学校卒業まで「考える」事を授業で経験していないので解らないようです。これはランサイ中・ビヴケイ中でも同じでした。住田がヒントを出して、21才のイエン・スラッ先生が数字を並べて考え、黒板に答えをきました。「正答である」ことを伝えると嬉しそうな顔をしました。



水上にそびえ建つポットロン小学校



増水のため生徒は舟で学校に通います。



ポットロン小の4人の先生に模範授業をしました



イエン・スラッ先生が答を考え出しました。

◆アライン・ランサイ中学校訪問

学校に着くと夏休み中にも関わらず、プローン・プロン校長以下全職員が登校して私たちをにこやかに迎えてくれました。中には子どもを連れて来ている先生もいます。先生方全員に「**によにゆむ通信**」を配りました。先生は通信に載っている自分の写真を見て大喜びです。



によにゆむ通信を見て、自分の写真が載っているのを見つけて、喜ぶランサイ中の先生たち



■ランサイ中の先生・研究2年目の抱負！「今年は全教科のカリキュラムを作ります。」

プローン・プロン校長先生は、挨拶の中で、「SSFCに指導を受ける以前の授業を思い出しましょう。この1年半で私たちは凄い進歩をしました。SSFCがいつも話している、先生としての自覚・意識も変わりました。私たちは今年度の研究の準備も進めています。今、各教科のカリキュラムを作っています。」と作成中のカリキュラムの1部を見せてくれました。(私は、驚き、感激しました。先生たちの進歩は凄いと心から思いました。)

○ノツ・サバー副校長(数学・32才) 授業発表会はとても良かった。生徒のためにも良かった。先生の指導は凄く進歩した。先生の指導が良いので、今年度のランサイ中学校への生徒の申し込みが増えた。

○ソクン・ティアリー先生(数学・23才)カリキュラムを作っています。教育省のカリキュラムを基にして、学校に合ったものを作っています。もちろん教科書を全部終るように計画を立てています。

○インビスナー先生(歴史・31才)歴史のカリキュラムをつくります。歴史のカリキュラムを作ることは、カンボジア暗黒時代の内容に関わるので難しいです。今年も生徒によく分かる授業をします。

○(バーン・ソパニー先生)今年も研究を続けて、自分の能力開発をしていきたい。

○(ニーン・ソピアップ先生) 研究したことはとても役に立った。今年も研究を続けたい

○(パエン・リクンティアリー先生)生徒が授業に参加して活発になった。研究を続けていろいろな教え方を知りたい。

○(マイ・ポン先生)

他校の先生も授業を見てくれたので、私ももっと勉強しないといけないと思った。参観の先生が授業を真似するくらい上手になりたい。

○(ヴァイ・ピサイ先生)日本でやっている英語の教え方を知りたい。英語の授業の仕方、魅力的授業が出来るようになりたい。



今年も生徒によく分かる授業をします。

先生たちはそれぞれ抱負を語ってくれました